専念寺通信

１月号（NO.１７３）http://sennenji.s296.xrea.com/

明けましておめでとうございます。皆さま、おかわりなく新しい年をお迎えになられましたでしょうか。

☆一枚起請文

年の初めに法然上人の言葉、「一枚起請文」を紹介させていただきます。２７３文字からなる、上人最後の言葉です。

もろこしわが朝に、もろもろの智者たちの沙汰し申さるる観念の念にもあらず、また学問をして念のこころをさとりて申す念仏にもあらず、ただ往生極楽のためには南無阿弥陀仏と申して、うたがひなく、往生するぞとおもひとりて、申すほかには別の仔細候はず。ただし三心四修と申すことの候は、みな決定して、南無阿弥陀仏にて往生するぞとおもふうちにこもり候なり。このほかにおくふかき事を存ぜば、二尊のあはれみにはずれ、本願にもれ候べし。念仏を信ぜん人は、たとひ一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無智のともがらにおなじうして、智者のふるまひをせずして、ただ一向に念仏すべし。

もろこしとは中国のことです。わが朝は日本のことです。それぞれの国におおぜいの智者がいて仏教研究をしていました。その研究者の言うような、「観念」のための念仏ではなく「学問」のための念仏でもなく、ただ普通の人が、（当時、文字の読めない人はおおぜいいました。）文字が読めなくとも、南無阿弥陀仏ととなえる、それだけで往生できるのだとの教えです。

この教えの基本は、世界が富める国と貧しい国に分かれている今、豊かな教育を受けられる人たちの国と、学校などのない国とに世界が二分されてきている今の時代に充分あてはまります。近くに学校があり、教会や寺院があり、寄付もでき、自分の信ずる宗教について本を読んだり優れた人に接する機会を多く持てる人たち。一方で、生まれたときから、自分の国が戦乱にあり、飢餓にあり、文字を覚える機会も、宗教というものに接する機会も持てぬまま、生き延びることが最優先事項だという人たち。その時こそ祈りが必ずや救いになります。現在、平和がおびやかされつつある私たちの国で「祈る」という行為の大切さ、それによって万人の生命が尊ばれるのだ、という法然上人の教えは力強い意味を持ちます。祈願し、歩むべき道を見出し、困難な状況でもあらめずに一歩一歩進んでいきましょう。文字を読むことができるのは有難いことです。そして戦争をとめようと声をあげる自由があるのは、有難いことです。この平和を守り、今をしっかりと生きていきましょう。

銀杏のお守りがたくさんできました。大玄関でお渡しいたします。本年も皆さまが平穏でお健やかでありますように。

平成２７年１月１日　　大黒